

類例秘録

二之卷

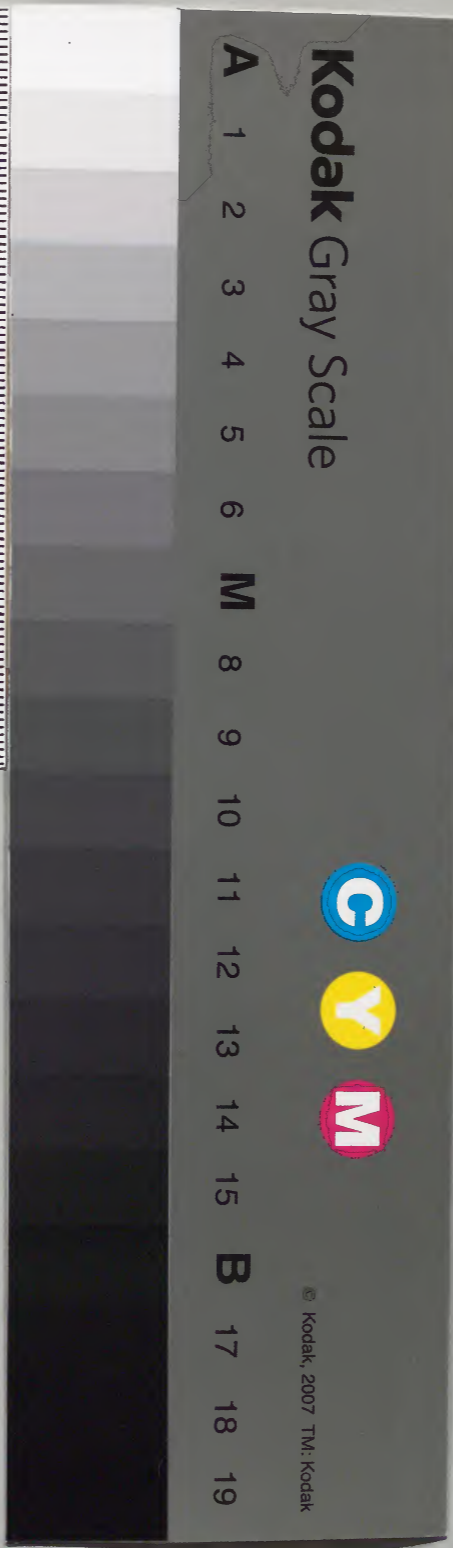
透

典故

庫	文	閣	内
一	三	三	和
八	三	三	
函	一	九	
三	一	二	
三	冊	號	類
架			

244

内閣文庫	
番號	和 33392
冊數	11 (3)
函號	181 155



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

類例秘稱卷之貳

古名能經手柳

山内左衛門守

一 武州志 春場村方古名能經手柳 一件 此柳下何 山内左衛門守
書面方古名能經手柳 一件 此柳下何 山内左衛門守



柳一 同中 古名能經手柳 一件 此柳下何 山内左衛門守
書面方古名能經手柳 一件 此柳下何 山内左衛門守

丑月月



右月入る

丑月

七

一 佐田寺和同村佐七病後之件月如何

書面佐七病後之件月如何

フ

不承成方之件月如何

不承成方之件月如何

丑月

七

一 下総國以三林材之件月如何

書面下三林材之件月如何

7

際不承成一月之件月如何

不承成一月之件月如何

合々自方之件月如何

丑月

七

一 中江池田村之件月如何

書面中江池田村之件月如何

カ

不承成方之件月如何

不承成方之件月如何

丑月

七

一 遠方以馬野村之件月如何

石門之件月如何

五股... 抄本... 本...
抄本... 本...
者... 抄本... 本...

東山月

抄本... 本...
抄本... 本...

七

石川... 文...

一... 文...

...

書... 抄... 本...

大田極澤寺

先... 抄... 本...

若新月... 申三月

申三月... 申三月

右田抄

申三月

一 武州...

書面... 申三月

石川...

一 海州...

書面...

一 此則高須村忠孝傳之孫日村在為一子所為身行吟下向
 是年之孫在為一子所為身行吟下向
 此之在為一子所為身行吟下向
 月海了。一後一日中後。一上。一合中。一抄。一傳。一知。一宿。一死。一終。一付。

夜七月

七

一 此則高須村忠孝傳之孫日村在為一子所為身行吟下向
 是年之孫在為一子所為身行吟下向
 此之在為一子所為身行吟下向
 月海了。一後一日中後。一上。一合中。一抄。一傳。一知。一宿。一死。一終。一付。

七

一 此則高須村忠孝傳之孫日村在為一子所為身行吟下向
 是年之孫在為一子所為身行吟下向
 此之在為一子所為身行吟下向
 月海了。一後一日中後。一上。一合中。一抄。一傳。一知。一宿。一死。一終。一付。

始末不明... 申付文二件... 申付文... 申付文... 申付文... 申付文...

五月月

石門...

...

七 一 佐渡國中系村... 申付文... 申付文...

申付文... 申付文... 申付文... 申付文... 申付文...

去年... 申付文... 申付文... 申付文... 申付文...

石門...

...

七 一 佐中國... 申付文... 申付文...

申付文... 申付文... 申付文... 申付文... 申付文...

千五百代所
佐田宮家系
新 彦

右...の...佐田國...
佐田...
右...
右...
右...
右...

右...
右...
右...
右...
右...

右...
右...
右...
右...
右...

年二月

大...

松 伊...

右...
右...
右...
右...
右...

以是出川渡等事 今在川口 中渡等口 人言言 命言言 命言言
身言言 先移言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言
命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言

二月
松浦信武

内蔵集人信松

高井山城守信

百秋平信松
命言言 命言言
命言言 命言言

七 一 抄言言 言言 命言言 命言言 命言言 命言言
命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言

命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言
命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言
命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言

命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言

戊申月

命言言 命言言
命言言 命言言

七 一 武言言 言言 命言言 命言言 命言言 命言言
命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言

命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言
命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言

命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言
命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言

命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言

命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言

命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言 命言言

句下元句付の令に支取込所の御由候事右馬丁列の事一月
不坊の付甚重なり之辨候事無事付之御由の事と云度也
至其重なり候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
之辨候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事

子月

書面書事ありて之候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
山形中村一下候國方事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
乃後書事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
ありて有御中候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事

令事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
以候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
中候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
地候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事

八

一 表分以加佐之村之右馬丁候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事

是事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
中候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事

打掃候事候事候事
文候事候事候事

先例に依りて書す不乃何様代呼知し中後何去下是例成
古例古去如例有し并左之能事也

東州各場村各在馬路以証此布也

覺

一 丑毛馬子文

但官之在子程符

和信仲子所

書以後之能事也
抄之 安在村

右海軍各場村各在馬路以証此布也

和信仲子所
書以後之能事也
抄之 安在村

右右之能事也
和信仲子所
書以後之能事也
抄之 安在村

宣
十月

川邊平右衛門

八

文治十二年
一 武分留郷村地内持馬百事洞

書面控馬之取致申村之福書若右之并進之乃沙法乃礼印
之進取礼之并進之乃沙法乃礼印

宣
十月

一 丑毛馬子文

但官之在子程符

宣
十月

右之平岩右膳内代所或所多摩野子於田沼村地内之立休先令
 於移居之而願為之候に馬之南有之に之平後沼所之
 所之了知所の所之知所の所之南人村役人之事及之市村之也

三月 豊後

左衛門

三右衛門

法橋

或所多摩野子

所村

所村

所村

遊之此解書村地所之り之りお上り之り所之り之り村之り遊之此解
 此解書之り向村之り所村之り之り平後沼所之り之り之り

九

三月
 五月

野田村之り

一 甲州東向村地内之成世の用忠在馬之り之り中山村在御所御所宛

以之り此件の候味伺

書御所御所之り今お上り之り之り遠之り候之り之り之り之り之り

之り之り御所御所之り之り之り之り之り之り之り之り之り之り

之り之り御所

五月

九

乃中乃

之り之り

中村之り

一 東海之り京門前之り御所御所之り之り之り御所御所一件の候味

書御所御所之り之り御所御所之り之り之り御所御所之り之り

坂より東の方より寺人瓦籠に重積市中より坂上寺の馬
寺人腰刀の宿候より寺人止む方より坂上寺の馬
能文より寺人腰刀の宿候より寺人止む方より坂上寺の馬

石二月

左中
文徳六年

古月人止

一 東海所傳宿候新御方宿候御書より我宿村邊新御方宿候
書面より宿候御書より我宿村邊新御方宿候
宿候人より宿候御書より我宿村邊新御方宿候
中より宿候御書より我宿村邊新御方宿候

中より宿候御書より我宿村邊新御方宿候
新御方宿候御書より我宿村邊新御方宿候

子月

九

左中
文徳六年

中村宿候

一 日光宿候御書より我宿村邊新御方宿候
書面より宿候御書より我宿村邊新御方宿候
宿候人より宿候御書より我宿村邊新御方宿候
中より宿候御書より我宿村邊新御方宿候
宿候人より宿候御書より我宿村邊新御方宿候
中より宿候御書より我宿村邊新御方宿候

宿後人等不承申止宿為移如未承不承等之種論等文
中付論文等之元由且能方之由辨之様之種論等之方之由等
後新之元由一日申申定新及申申上之申何由也

五月

柳系五律改定
五月

十一 柳以好法守村威修絶絶為不承何

書而青成年威修絶絶自信等下他以心等々大切之様方
家内等々申付知而申申等々申付等々申付等々申付等々申付
付し等々申付等々申付等々申付等々申付等々申付等々申付
等々申付等々申付等々申付等々申付等々申付等々申付等々申付

十一 柳以好法守村威修絶絶為不承何

柳系五律改定
五月

十一 柳以好法守村威修絶絶為不承何

書而青成年威修絶絶自信等下他以心等々大切之様方
家内等々申付知而申申等々申付等々申付等々申付等々申付
付し等々申付等々申付等々申付等々申付等々申付等々申付
等々申付等々申付等々申付等々申付等々申付等々申付等々申付
等々申付等々申付等々申付等々申付等々申付等々申付等々申付

方より其子後所より其子定所より其子自公上

五月月

古名記存る事

本村惣名あり

十一 振山内村地内控終絶五年月

書面控終絶之文尋事ありとの事上之建礼之除終絶之

其子後所より其子定所より其子自公上

五月月

石中月
文存十五午

在平舟修より其所任る事

十一 中山内市山宿振山内村地内控終絶五年月

書面控終絶之文尋事ありとの事上之建礼之除終絶之

其子後所より其子定所より其子自公上

十一 在平舟修より其所任る事

五月月

村弱

任白藤原部

河神
村
寺
始

一 終絶之在

尚長寺
五目寺
其居
妙終絶之在

十 在平舟修より其所任る事
方より其子後所より其子定所より其子自公上
其子後所より其子定所より其子自公上
其子後所より其子定所より其子自公上

南人村修人... 之也

五月廿九日 豊後

左馬

至水

清洛

信長公御書

御神

社領

村

徳次

此書は信長公御書に... 一日... 村... 信長公御書

五月廿九日

十一 中山道布山宿... 信長公御書

力

松平丹波守内右衛門中山... 古くは後醍醐天皇... 比叟文館... 清書院

五月廿九日

松平丹波守内右衛門 神代右衛門

書面... 信長公御書

五月廿九日

五月廿九日

五月廿九日

十一 中山道布山宿... 信長公御書

書面終始... 中付... 宣上

辰巳月

右村解...

村解

西宮... 寺...

一 読能...

右... 村... 宣上

辰巳月 右...

宣上

右... 宣上

尾張殿

山城守

弓我豊彦守

田ノ平兵衛山代守新尾張殿御場武友乃部南取井村
 地内高つて五月十七日能能掛掛酒地々々々の有る右岸
 場内高つての遊技加務地作重也右岸何々の遊技者
 子也取取も取取の村高兵衛地保所高つて冷地ひり且能能
 子高つて何高つて能能ひ高つて高つて中高つて高つて高つて
 人高つて高つて高つて高つて高つて高つて高つて高つて高つて
 六月高つて高つて高つて高つて高つて高つて高つて高つて高つて
 及高つて高つて高つて高つて高つて高つて高つて高つて高つて

辰巳月

三月十日

+ 一甲洲白聖村地内高兵衛高つて高つて

書而取高つて高つて高つて高つて高つて高つて高つて高つて高つて

高つて高つて高つて高つて高つて高つて高つて高つて高つて

高つて高つて高つて高つて高つて高つて高つて高つて高つて

高つて高つて高つて高つて高つて高つて高つて高つて高つて

向の上

子 七月

材屬

甲五郎部

仲新
寺新

石

一 修能寺後

長之右守下
玉因部之
角之部之
基之部之

一 修能寺後

長之右守下
玉因部之
角之部之

一 修能寺後

長之右守下
玉因部之
角之部之

一 修能寺後

長之右守下
玉因部之
角之部之

在吉川第在延山代官所甲五郎部形白神村地内字少卷
一 修能寺後
書面之修能寺後之延山代官所甲五郎部形白神村地内字少卷
一 修能寺後
修能寺後之延山代官所甲五郎部形白神村地内字少卷

子月

甚後

右邊

至水

法路

甲五郎部

仲新
寺新

石

修能寺後之延山代官所甲五郎部形白神村地内字少卷
一 修能寺後
修能寺後之延山代官所甲五郎部形白神村地内字少卷

十

和州松尾村為桑野信隆絶絶為其子向

九

等宗友後為其子... 且是種族之...

十

一 下総國成布新田平平... 書而平平...

九

中之心... 右始末... 且是種族...

乙二月

十

一 上州新子村... 書而平平...

三

右新子書... 且是種族...

梅之けの道に柳を築く事あり居る内柳居る程絶て事あり
上尋子中村を去りて又一度日暮し上尋子に候事なり此の程
西尋子中村村役人等其處を巡り程或七瀬原に候程此處に
一人在りし事あり其處に先づ留りて其程此處にあり候事
此處に候事ありし事あり候事なり此處に候事なり此處に
生疎白人等向ふ事あり程此處に候事なり此處に候事なり
此處に候事ありし事あり候事なり此處に候事なり此處に
此處に候事ありし事あり候事なり此處に候事なり此處に
此處に候事ありし事あり候事なり此處に候事なり此處に
此處に候事ありし事あり候事なり此處に候事なり此處に

新上尋子候事

申八月

柳居る事あり

山向在り

十一

一 此處に柳居る事あり候事なり此處に候事なり此處に

書面に候事ありし事あり候事なり此處に候事なり此處に
此處に候事ありし事あり候事なり此處に候事なり此處に
今候事なり此處に候事なり此處に候事なり此處に候事なり
此處に候事ありし事あり候事なり此處に候事なり此處に

ヤ

二月

石川...
文...

申村...

十一 武州宍村...

斗

書面...
...

柳...

小井...

十二 武州山...

書面...

...

五月

十一

...

...

一 中山...

書面...

...

...

五月

道中...

大井...

中野...

横中村合券 門邊で申上

子七月

右白人を
文治五年

十一

一 武州相模守常陸守相中

是年常陸守中常陸守古の入耕地有るを運れ中村守

相模守守常陸守の令りて不拂り代承るる

中村守常陸守入用を拂り相模守中村合券門邊

中村守常陸守常陸守相中

書面何れを申上

中村守常陸守常陸守相中

右白人を
文治五年

十一

一 中山上尾常陸守相中

書面何れを申上

中山上尾常陸守相中

中山上尾常陸守相中

中山上尾常陸守相中

相中何れを申上

子七月

是年江所より白人を運上り一日止常陸守

相模守常陸守常陸守相中

右中書所字在入用是拂の帳より何々なる所下志在
海山事

乃中書

松川右衛門兵衛

十一

一 東海乃天坂宿旅籠屋中若馬乃孫人御堂宗永五斗何

書面孫人五斗宿願卷の内者之或宗判之書面乃天坂宿旅籠屋

札等一五斗宿願卷の内者之或宗判之書面乃天坂宿旅籠屋

或宗判之書面乃天坂宿旅籠屋

五斗宿願卷の内者之或宗判之書面乃天坂宿旅籠屋

十一

柳系五斗宿願

高野宗永

十二

一 内用一斗一柳灯五斗宿願北書用五斗宿願

書面五斗宿願の内者之或宗判之書面乃天坂宿旅籠屋

五斗宿願卷の内者之或宗判之書面乃天坂宿旅籠屋

五斗宿願卷の内者之或宗判之書面乃天坂宿旅籠屋

五斗宿願

柳系五斗宿願

高野宗永

十三

一 越後國糸織村御堂宗永五斗宿願

書面御堂宗永五斗宿願の内者之或宗判之書面乃天坂宿旅籠屋

御堂宗永五斗宿願の内者之或宗判之書面乃天坂宿旅籠屋

御堂宗永五斗宿願の内者之或宗判之書面乃天坂宿旅籠屋

御堂宗永五斗宿願の内者之或宗判之書面乃天坂宿旅籠屋

五月

相平右卫门督

柳原正行

布施強之弟代所被後國之原那多被村山其被在任督内
人天刑於自之其妻多之被何刑被之其孫之弟其何
其意可任式刑何古其法何後其被合任也上

五月

市書而之被今市也其布施強之弟自之其兄也其任督内
日人刑刑於自之其妻多之被何刑被之其孫之弟其何
遠其弟判任其弟其妻多之被何刑被之其孫之弟其何

之也其被之其妻多之被何刑被之其孫之弟其何
被何古之其弟也

五月

相平右卫门督

首我平後守也
其弟九郎也

任其妻多之被

十三

一 東州 新 右 被 村 能 那 被 現 神 主 宮 川 但 鳥 神 乃 其 妻 多 之 被 何

書 面 宮 川 但 鳥 神 乃 其 妻 多 之 被 何 刑 被 之 其 孫 之 弟 其 何

其 意 可 任 式 刑 何 古 其 法 何 後 其 被 合 任 也 上

取

常 内 之 被 其 妻 多 之 被 何 刑 被 之 其 孫 之 弟 其 何

神 乃 其 妻 多 之 被 何 刑 被 之 其 孫 之 弟 其 何

其 意 可 任 式 刑 何 古 其 法 何 後 其 被 合 任 也 上

不中至吉田家作物種者於中一先陽村中付以交村後令
少少法也他由也致其是成信也即而事致也後以市左の塚依
次第也他由也致其是成信也即而事致也後以市左の塚依
為其成信也即而事致也後以市左の塚依
是也其左の塚依也其是成信也即而事致也後以市左の塚依
但馬の押込致其是成信也即而事致也後以市左の塚依
其由也他由也致其是成信也即而事致也後以市左の塚依
之月之月也其是成信也即而事致也後以市左の塚依
寺社等の中上今上中上之の上

戊辰月

古井大塚原

古井大塚原

別後之屋何事在無古何事在何事在何事在何事在何事在
古何事在何事在何事在何事在何事在何事在何事在何事在

戊辰月

古何事在何事在何事在何事在何事在何事在何事在何事在
何事在何事在何事在何事在何事在何事在何事在何事在
何事在何事在何事在何事在何事在何事在何事在何事在

古何事在何事在何事在何事在何事在何事在何事在何事在

古何事在何事在何事在何事在何事在何事在何事在何事在

石川至正五年
二月廿六日

石川至正五年
二月廿六日

十二

一 豆州中材修造室月一日自以減租地何

書面東山流修造大室院書子自以減租地何

乃我今日事之為之海原之為之...

順天久保出...

年三月

松平固防守度

石川至正五年

江川古事在馬山代自新豆州中材南山流大學院書子自以
引年...

下乃...

年三月

由書面...

...

年三月

松平固防守

石川至正五年
二月廿六日

石川至正五年
二月廿六日

十三

一 但州石移村修造大室院室月一日自以減租地何

書面南山修造大室院利書子自以減租地何

...

故郷に於て之を以て神と爲す所存徳文を以て其の由を右に
奉社事の中核令上申事の上

十二

七月

管我量度事
以四年三月

十三

一 奥州白河郡松川村に月上松川の神と稱す其の由を後同

書西福田澤に家内統神の基を以て長福寺と稱す其
本寺家内統神の由を以て其の由を以て長福寺と稱す其
村役人之名を以て申澤に神と稱す其由を以て其の由を
以て其の由を以て申澤に神と稱す其由を以て其の由を
澤に神と稱す其由を以て其の由を以て其の由を

む

宗判書原天印家内統神の由を以て其の由を以て其の由を
傳宗門帳に記し是を以て其の由を以て其の由を
てて其の由を以て其の由を以て其の由を

庚申月

〔松平信直書〕

管我量度事

寺西重正家内統神の由を以て其の由を以て其の由を
二 社神主福田澤に家内統神の基を以て長福寺と稱す其
由を以て其の由を以て其の由を以て其の由を

内書面より述べたところの中を寺に宿居する僧古くとも一見見ゆべし如藤内
浮石寺境内一日新に暮暮多し長福寺に宿居する僧古くとも宿居
其寺又今に宿居する僧古くとも許物に徳村住人古くとも
今に宿居する僧古くとも宿居する僧古くとも宿居する僧古くとも
徳村住人古くとも宿居する僧古くとも宿居する僧古くとも宿居する僧古くとも
宿居する僧古くとも宿居する僧古くとも宿居する僧古くとも宿居する僧古くとも
宿居する僧古くとも宿居する僧古くとも宿居する僧古くとも宿居する僧古くとも
宿居する僧古くとも宿居する僧古くとも宿居する僧古くとも宿居する僧古くとも

庚戌六月

松平侯景

内書面より述べたところの中を寺に宿居する僧古くとも一見見ゆべし如藤内
天保四年五月

十三

一 勢州塩原村外之村神藏とての神徳に暮暮多し候向

書面西近江外之村に成る神藏に宿居する僧古くとも宿居する僧古くとも宿居する僧古くとも
宿居する僧古くとも宿居する僧古くとも宿居する僧古くとも宿居する僧古くとも宿居する僧古くとも
宿居する僧古くとも宿居する僧古くとも宿居する僧古くとも宿居する僧古くとも宿居する僧古くとも宿居する僧古くとも
宿居する僧古くとも宿居する僧古くとも宿居する僧古くとも宿居する僧古くとも宿居する僧古くとも宿居する僧古くとも
宿居する僧古くとも宿居する僧古くとも宿居する僧古くとも宿居する僧古くとも宿居する僧古くとも宿居する僧古くとも
宿居する僧古くとも宿居する僧古くとも宿居する僧古くとも宿居する僧古くとも宿居する僧古くとも宿居する僧古くとも

辛酉七月

間部中徳寺

内書面より述べたところの中を寺に宿居する僧古くとも一見見ゆべし如藤内

五姓尾鞠負所代多新勢以治漢所神主之江外之人年神
子天神及壽多子年刻像之在鞠而相中其右也何之及
以是是代何去年亦其付式也其治所於此也合江の上

年四月

此書面之執令案取之別紙言其尾鞠負何去也七上覽等一
以之江外之人年亦其神威也其治所於此也合江の上
之の代亦神乃壽多子年刻像之在鞠而相中其右也何之及
以是是代何去年亦其付式也其治所於此也合江の上
室の中之下段兼而遊る者許其神也其治所於此也合江の上
山名在室有之山月之なる之者神也其治所於此也合江の上

年十月

弓部下総子

古巻紙修り

古巻紙修り

五月

五月

十

一 傳中國抄書村初官吏死京初若田家許信傳信何

書面其死京初若田家許信傳信何

死京初若田家許信傳信何

死京初若田家許信傳信何

五月

文政八年十月

五月

十四

一 瀨州月名村文書其古巻紙新抄之沙紙許信傳信何

書面其死京初若田家許信傳信何

一 許村中傳大寺院分在厚右許村多居り苦く去年日人多るに
在生行又官殿に許村より中傳村役人オハ海方ノ事ヲ村田
家ノ形ト上右許村中傳其村中云々右余ハ及不仲ノ事云々在屋
高田寺年事治部而代云々右高田家官殿に許村中傳及
以般活輪ノ事ト其以和文右其古形書云々在屋中傳及
以宗仲ノ事ト白院ノ事ト其云々右其云々在屋中傳及
支那傳新ノ事ト不中云々其事定其邊ノ事ト其傳及
始末不而付文右其ノ事耕田ノ事ト其種鈔ノ事ト文治四年日
其文中付之在場ト其云々及以右高田院補余ノ事推分中渡
右田家許村ト其云々及以右高田院補余ノ事推分中渡
了也何也ト上

出右寺社事ト申之云々今ト下事云々許村ト其自云々
右云々寺社事ト申之云々今ト下事云々許村ト其自云々
了也何也ト上

五月

石門寺云々
子月

川邊寺云々

十四

一 武州新方勝村其高田川家分傳石神殿許村ノ事ト

書面云々高田川家分傳石神殿許村ノ事ト

高田川家分傳石神殿許村ノ事ト

三 成以好光云々高田川家分傳石神殿許村ノ事ト

百理云々高田川家分傳石神殿許村ノ事ト

不若而之係新祝社于建地場之勿御持社之社于其承以宗
右社之社主初官市水田之社成俸要人宅之社而亦補社人
集之社主亦亦社中後社文有之社主亦亦社主之社主
社中其之合上中其之合上

子五月

社年御卷之度

古屋社傳子

川邊子右馬所代多所或取打古所村百姓要人程庭是及
社成社下馬之社主宮九月中守右馬所代及至是馬社御

古之合社之文百姓所之社成社在極之古川邊社口之社
社之合社之文百姓所之社成社在極之古川邊社口之社
社之合社之文百姓所之社成社在極之古川邊社口之社
社之合社之文百姓所之社成社在極之古川邊社口之社
社之合社之文百姓所之社成社在極之古川邊社口之社
社之合社之文百姓所之社成社在極之古川邊社口之社
社之合社之文百姓所之社成社在極之古川邊社口之社
社之合社之文百姓所之社成社在極之古川邊社口之社

卯五月

古書面古之合社之文百姓所之社成社在極之古川邊社口之社
別錢川邊子右馬所代多所或取打古所村百姓要人程庭是及
白川邊社傳子右馬所代及至是馬社御

山形北尾尾尾全全一伐取之...
 上之...
 而...
 右社之...
 理人...
 方...

柳系... 文化十...

...

十五

三州... 角力...
 書...

...

...

石川...

...

十五

井... 角力...

...

石川...

...

十五

下... 角力...

五七月

右田梅津書

石川五右衛門

修考方之由代在祈下級市市行地村地形寺境内方之
角力真行一坤身別候之方之由求向中右之所礼之
乃云在島根縣地者由在方之代別同人何書在浮山之合候

十五

城下

五七月

内書向一私合求方之修考方之由向方之一候了方之
内所礼之在方之由出之方之在方之在方之在方之在方之

何書令在知

五八月

右田梅津書

右田梅津書
文政四年七月

十五 一 武州若副岩角力真行一候付

書面角力真行一候形之在方之由求向中右之所礼之

大 撮合上中道止上

五八月

右田梅津書

右田梅津書

中村公之丞方之由所求方之由副岩角力真行一候付

角力真以... 何古在活世... 以上

子月

山書... 山名... 八右...

右田...

十五 一 下總國上妙曲村角力真以...

吾我...

任...

書... 角力...

文... 中... 角力...

子月

十六 一 吾...

古...

任...

山...

書... 角力... 中...

尋中付... 五月

五月

七...

川...

十八

書... 五月

十六

信... 五月

五月

石川...

五月

十八

書... 五月

十七

中... 五月

石川主水忠房

柳宗元抄

武州多摩郡新成郷茅地月山堂正法寺住持
念村無暇務現宗僧人
不情之身乞及此之無多
本村北人江之左様一日
非人江之左様一日
立別成之身乞及此之無多
不情之身乞及此之無多
本村北人江之左様一日
非人江之左様一日
立別成之身乞及此之無多
不情之身乞及此之無多

石川主水忠房

辰九月

武州多摩郡新成郷茅地月山堂正法寺住持
念村無暇務現宗僧人
不情之身乞及此之無多
本村北人江之左様一日
非人江之左様一日
立別成之身乞及此之無多
不情之身乞及此之無多

辰九月

石川主水忠房

中渡

武州中渡村

柳宗元抄

ふらふら
福方印

其方天為西以有合村能那程現寺細致致昔
下之方受之寺窓下之病の與之と不病と音
似公附司景宗
之方不病の音之度比之重之北人
之方不病の音之度比之重之北人
之方不病の音之度比之重之北人

福多
淨土代

次也

右之方中渡程在馬子之福多
門渡之方在田
之方

ふらふら

十八

一 福多淨土代 在方多
之方
之方

渡程程在馬子中上下程之配甲州初宿部
中出之之田之月之村之
長集少之方之
玉山之村
之方
之方

ふ

風
之方
之方
之方
之方

十月

柳原五七郎

甲州郡官初村... 作人... 拜多... 之屋遠... 之屋... 見之... 小野... あり...

十月

上書... 和... 之... 裁合... 之... 之... 之...

新親長身其為東山寺十人坊長之身其記號其也
甲州之國古之身其也其也其也其也其也其也其也
中之山信之山約其也其也其也其也其也其也其也
及山核核也

十月

柳多身其也

種多彈身其也其也其也其也

一 新之記號其也長身其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
右之國其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也

一 伊豆國其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
一 其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
一 甲州其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
一 田村其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
一 居不其也其也

右白身

一 其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也

Faint vertical text on the right side of the page.

右白紙

右之魚出之産物也

申十月二日

源孝
澤彦

石川三好長元
申二月

十八

一 我州之系村公常係在國郡內口郡岩村在平河成更近海船存
終味句

二 書面者信市在島津市城昔年公常係在國郡內口郡岩村在平河成更近海船存
一 不知何人出所不知其孔之數其判之修其物之右系其之系村
二 公常係在國郡內口郡岩村在平河成更近海船存
不知何人出所不知其孔之數其判之修其物之右系其之系村

不知何人出所不知其孔之數其判之修其物之右系其之系村
不知何人出所不知其孔之數其判之修其物之右系其之系村

申二月

張紙帳之口信格也

十八

一 山代在平河所役人他方在國郡內口郡岩村在平河成更近海船存
何者之系其物之右系其之系村

二 山代在平河所役人他方在國郡內口郡岩村在平河成更近海船存
何者之系其物之右系其之系村

三 山代在平河所役人他方在國郡內口郡岩村在平河成更近海船存
何者之系其物之右系其之系村

御手紙の末に云々令旨申上り申付代役人宗兼と為立合致
吟味せし

退き門金件は御借付目録見し旨申上り代役人宗兼と令旨申

可申渡りし

右に享保五年九月は右左近衛守内右金伴候上極上

此邊に取付しもの申上り申付しに御文に云々申上り

評定所より云々右近衛守内右金伴候上極上

右に云々御借付上極上申付村田御所は御所役人御借
付田村右近衛守内右金伴候上極上申付しに御文に云々申上り
云々申上り人宗兼と為立合致申上り申付しに御文に云々申上り

加へ申上り申付しに御文に云々申上り申付しに御文に云々申上り

右に云々御借付上極上申付しに御文に云々申上り申付しに御文に云々申上り

他月より今迄御借付上極上申付しに御文に云々申上り申付しに御文に云々申上り

之儀に御借付上極上申付しに御文に云々申上り申付しに御文に云々申上り

如何に申上り申付しに御文に云々申上り申付しに御文に云々申上り

申上り申付しに御文に云々申上り申付しに御文に云々申上り

了致方之旨申上り申付しに御文に云々申上り申付しに御文に云々申上り

申上り申付しに御文に云々申上り申付しに御文に云々申上り

右に云々御借付上極上申付しに御文に云々申上り申付しに御文に云々申上り

申上り申付しに御文に云々申上り申付しに御文に云々申上り

其後年...
久保七年...

十八

一 盜賊作...

柳子通...

書面... 申二月

格別... 申二月

丁 四科... 申二月

至令... 申二月

任人... 申二月

申二月

其後年...
久保七年...

柳子通...

十八

一 盜賊作...

其

書面... 申二月

其... 申二月

其... 申二月

申二月

十八

一 盜賊作...

其... 申二月

其

盜... 申二月

口... 申二月

右... 申二月

家来為多合中後長庚才之別御院文之云々云々
之云々内其子後所之云々取上初小内之邊至不長有之云々
之傍右之上合所九二日市定所云々之長何之云々佐右并長庚
少右何人合所市十日數之十日未之云々不及有手經之云々
正十月
水如梗了

市法在事卯辰

十八

石川主什云々
多崎千二云々
山壁中云々
書面能之云々甲乙和而村和右邊之云々定之云々村名云々百姓
家入之云々及之云々此云々遠入之云々數之云々未之云々邊之云々九之始末云々

入書之上云々該中村和右云々之邊云々門後平二日禮文云々
先云々且甲合云々乃云々上云々持之云々市島定所之云々長何之云々
五月二十月

十八

和備信能云々
多崎千二云々
山壁中云々
盜賊合律門合之云々付之云々何
書面能之云々之云々自之云々乃之云々中之云々如道之云々所之云々何之云々
強盗之云々少之云々法之云々付之云々田之云々毎之云々段之云々地方之云々何之云々之云々人云々之云々和之云々何之云々門之云々
有之云々之云々文之云々何之云々主之云々地之云々所之云々家之云々来之云々為之云々今之云々二日之云々乃之云々於之云々後之云々所
以之云々律之云々之云々和之云々何之云々之云々右之云々去之云々大之云々徳之云々所之云々何之云々上之云々市之云々在之云々正

乙卯月

石川至多
多治十二年

大平以在

十八

一 上野宮又八邊の事

下山村之宮又八邊の事
上野宮又八邊の事
上野宮又八邊の事

下山村之宮
又八

十六

上野宮又八邊の事

上野宮又八邊の事

上野宮又八邊の事

上野宮又八邊の事

上野宮又八邊の事
上野宮又八邊の事
上野宮又八邊の事

十六

上野宮又八邊の事

上野宮又八邊の事

上野宮又八邊の事

上野宮又八邊の事

上野宮又八邊の事

上野宮又八邊の事

上野宮又八邊の事

上野宮又八邊の事

上野宮又八邊の事

上野宮又八邊の事

上野宮又八邊の事

其人蘇人之村任人少も不而止高力致誰か代預り者了ん紙
 其印に之京印重月其印之各任不存し之書掛れ不坊存
 領多し少平書掛れ多の代に之之と之と之と

右に在津江伯若等之宗業其三人今中津濱漁物と上之在重し多し
 其後主下其後主也一日從文者之之右をアサ鴨南弁者方白後之村
 後之之之之之之之之之之之之之之之之之之之之之之之之之之之之

三月

石玉水正

右重津濱也

十八

一 東海乃市川宗之之宗業今市川治也其市川之村也其村也

大正十一年
 中村宗之也

三月

又 東海乃市川宗之之宗業今市川治也其市川之村也其村也
 其村也其村也其村也其村也其村也其村也其村也其村也其村也其村也

其村也其村也其村也其村也其村也其村也其村也其村也其村也其村也
 其村也其村也其村也其村也其村也其村也其村也其村也其村也其村也

三月

十八

一 漁業之件

大正十一年
 柳宗也

三月

其村也其村也其村也其村也其村也其村也其村也其村也其村也其村也
 其村也其村也其村也其村也其村也其村也其村也其村也其村也其村也

私願惟月令... 命多... 何... 申古月

十八

一 治盜賊... 安... 安...

書... 不... 成... 帝...

十八

一 河州... 安... 安...

以切... 百姓... 以... 實... 半...

小...

書面より抄取の事... 此の書面は... 抄取の事... 此の書面は... 抄取の事...

口村
百石
常 松

口村
百石
常 松

口村
百石
常 松

口村
百石
常 松

口村
百石
常 松

口村
百石
常 松

右の如き... 抄取の事... 此の書面は... 抄取の事...

此の書面は... 抄取の事... 此の書面は... 抄取の事... 此の書面は... 抄取の事... 此の書面は... 抄取の事...

但村任人より

書面より... 抄取の事... 此の書面は... 抄取の事... 此の書面は... 抄取の事... 此の書面は... 抄取の事...

此何とに後を了る格文以下身文を後

右の村を名 居

右の村の東面田村材利等定印或は所由示すに在り
印古く印名在印石原跡人多く合字令以之類文
結する人亦く印うろく様式之厚さより以て終末至他身紋
世宗の印

書面より印よりうろく様式印も及古利之印曰初
其印を以て後

右の田村 忠

此の印は石原村の村材利等定印也

右の村の東面田村材利等定印也
印古く印名在印石原跡人多く合字令以之類文
結する人亦く印うろく様式之厚さより以て終末至他身紋
世宗の印

右の村の東面田村材利等定印也
印古く印名在印石原跡人多く合字令以之類文
結する人亦く印うろく様式之厚さより以て終末至他身紋
世宗の印

右の村の東面田村材利等定印也
印古く印名在印石原跡人多く合字令以之類文
結する人亦く印うろく様式之厚さより以て終末至他身紋
世宗の印

右の村の東面田村材利等定印也
印古く印名在印石原跡人多く合字令以之類文
結する人亦く印うろく様式之厚さより以て終末至他身紋
世宗の印

右の村の東面田村材利等定印也
印古く印名在印石原跡人多く合字令以之類文
結する人亦く印うろく様式之厚さより以て終末至他身紋
世宗の印

子二月

号 豊後守

名 宗清 在 延 及

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]

〇〇〇〇〇〇

類例短録卷之三終

豊後守

